

「駒場散策会」

2016年6月25日(土)

恒例となった文化委員会主催の散策会は、心配された天気も、雨に降られることもなく、強い陽差しもない、この時期としては比較的過ごしやすい散策日和となりました。

例年と違って今年は午後の保護者会が無かったにもかかわらず、1年14人、2年13人、3年14人と、合計41人もの方にご参加いただきました。

以下に、行程と見学内容をご報告します。



集合場所は、国際生の憩いの場、駒場野公園。今年も、案内して下さったのは、国際高校元日本史教諭の蒲生眞紗雄先生です。受付後、10時過ぎに散策開始！

1) 駒場野公園内「ケルネル田圃」(駒場農学校実習田)

明治期にこの地に在り、日本の近代農学の礎となったと言われる駒場農学校の沿革について話を聞き、特に土壌や肥料の改良に大きな貢献をしたドイツ人教師ケルネルが実習用に使った「ケルネル田圃」を見学しました。ここだけ、都会にあるとは思えないような美しい里山の風景を今も残しているのが印象的でした。



2) 「明治天皇駒場野聖蹟碑」

明治3年に駒場野で練兵天空行幸(=明治天皇が駒場野練兵場に兵士たちの演習を見に来られたこと)があったことを記念して前田公爵邸敷地内に建立され、後に現在の駒場小学校の敷地内に移されたそうで、校庭の突き当たりの扉を貫けて少し下りた、意外な場所にあることに驚きました。

一般公開しておらず、普段許可無く入れない史跡とあって、ほとんどの参加者の方が写真に収めたり、碑の裏面に刻まれた建立者の前田利為らの名を確認したりしていました。

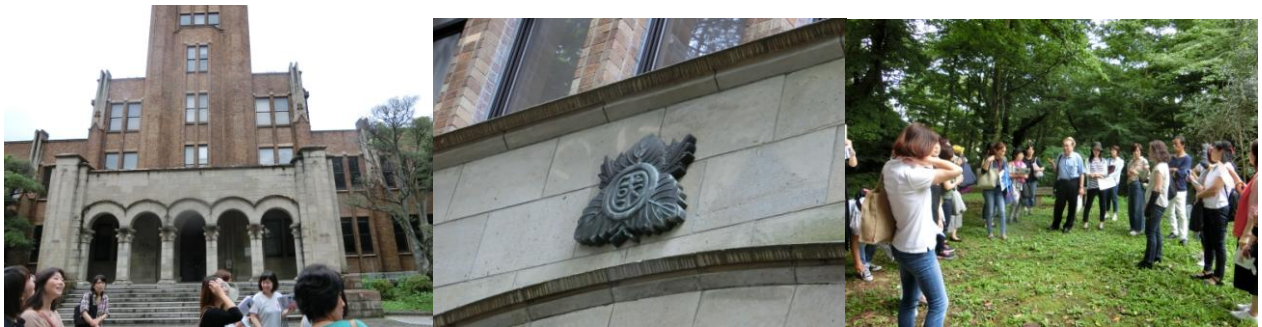
3) 東京大学駒場キャンパス(嗚呼玉杯之碑、駒場農学碑、一高講堂、1号館、護国旗章、他)

国際生もよく勉強や学食に訪れる東大駒場キャンパスの構内では、登録有形文化財である1号館(旧第一高等学校一号本館)を始めとする一高当時の建物や記念碑等を見学しました。

まず、いつでも東大生や教授が利用できるよう年中無休で営業しているというお洒落なフレンチレストランの前を通過して、一高の寮歌の一つ「嗚呼玉杯に花うけて」の歌詞を刻んだ嗚呼玉杯の碑や、駒場農学碑を見学。すると、地面には何故かあちこち土が盛り上がった場所が……。 「この辺りにはもぐらが沢山いるんです」という先生の説明に、皆がどよめくという場面もありました。

更に、一高と東大間の敷地交換で本郷から駒場に移転した経緯や、文武両道を表すという一高の校章の柏葉章(帽章型や護国旗型など)のデザインの由来など、先生のお話を伺いながら、1号館のアーケード壁面に今も残る護国旗のレリーフや、マンホールの蓋に印された一高の文字や、正門の柏葉章が付いた門扉などを見学しました。

日本の最高学府の構内は昼間でも落ち着いた雰囲気、静かな銀杏並木を歩きながら、参加者は当時の一高生に思いを馳せたのではないのでしょうか。



4) 駒場公園内旧前田家本邸(旧前田公爵駒場本邸)洋館・和館、尊経閣文庫

園内には加賀百万石の十六代当主・前田利為としなり公爵邸が一般に公開されており、渡り廊下で繋がる洋館と和館を見学することができます。

まずは、洋館から見学。地上 3 階地下 1 階建ての英国チューダー様式の建築で、外壁は当時流行していたスクラッチタイル。参加者はその重厚なたたずまいを次々に写真に収めていました。

玄関から建物の中に入ると、あちこちから「素敵！」「すごい！」などと感嘆の声が上がりました。

晚餐会が開かれたという 1 階の大食堂に備わった見事な大理石のマンテルピースなど、豪華な設備も然(さ)る事ながら、至る所にヨーロッパの家具や調度品が並び、時間が止まったままのような優美な室内を、参加者はうっとりとした様子で見回っていました。

また、地下の調理室から食事を運ぶ配膳用エレベーターや、当時136人もいたという使用人の部屋が並ぶのを見て、当時の公爵家の生活がいかに庶民から隔絶したものであったかを知ることができました。



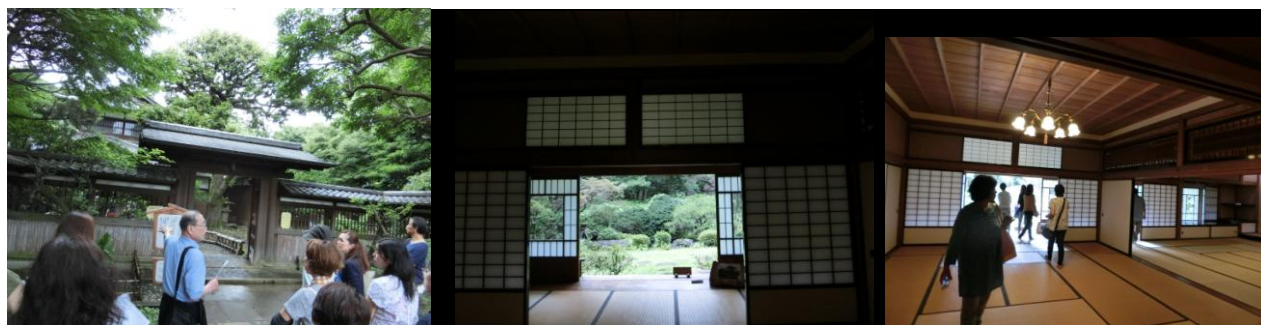
洋館見学後、正面玄関前で参加者全員の集合写真を撮影し、その後、和館へ移動。

和館は、英国駐在武官だった公爵が主に外賓をもてなすために建てたそうで、和の粋を集めた本格的な書院造りの木造二階建て日本建築。

1階の40畳ほどにもなる続き間では、透かし彫りの欄間や附書院のある床の間などを見学し、縁側から見事な回遊式日本庭園を眺めたりしました。参加者からは、「こっち(和館)の方が落ち着くね」、「(庭の)眺めが素晴らしい」などの会話が聞かれました。洋風の照明など、和洋折衷なインテリアに興味を引かれた参加者もいたようです。

最後に見学したのは、水屋などを備えた本格的な茶室。先生が、この茶室が一般の人にも比較的安い料金で貸し出されている事をお話しされると、一同から驚きの声が上がりました。

(茶室に続く小座敷の杉戸には日本画家の大家・橋本雅邦の絵が描かれています。)



和館を出ると、すぐ近くに建つ前田家の文庫・尊経閣文庫へ。ここは内覧ができないので外観のみ見学。文庫の外壁にも洋館と同じくスクラッチタイルが使われ、洋館の別館のような印象でした。

5)最後は、解散場所となる日本民藝館へ。特徴のある木造建築の外観を見ながら、開設者であり民藝運動の中心人物だった柳宗悦や展示品についての説明などを受けました。(民藝館の展示の鑑賞は、今回のコースには含まれていないため、解散後に希望者のみで自由見学としました。)

そして、解散。参加者から先生へ贈られた感謝の拍手を以って、本日の散策会は終了しました。



文化委員の私自身も、今回このような好機を得て、国際高校の近くにこれほど多くの史跡がある事や、今まで詳しく知ることのなかった史実を学べたことは大きな収穫でした。散策中、参加者は、資料を読んだりメモを取ったりしながら、蒲生先生の滑らかでわかりやすい解説に耳を傾けていました。

旧前田邸洋館は、この7月1日から平成30年9月末頃まで保存整備期間に入り、当分見学ができないということもあり、今回のコース中最も「(整備終了後に)また訪れたい場所」との感想が聞かれました。

最後になりましたが、蒲生先生と参加者の皆様のご協力のお陰で、今年も盛況の裡に無事散策会を終えることができ、心より感謝申し上げます。特に、蒲生先生に於かれましては、お忙しい中にもかかわらず、今年も快く案内を引き受けて下さり、参加者へ配布する9ページにも渡るしおりの原稿をご用意下さいました。この場を借りて、文化委員一同より深く御礼申し上げます。

文化委員会



旧前田邸洋館前にて記念撮影

